

# わたしたちの難民問題

2020 vol.21



紛争や迫害を逃れ、家を追われた人が、世界各地に 8,000 万人いるといわれています。日本にも様々な国から難民が庇護を求めてきています。コロナ渦でより厳しくなった難民の現状を知り、私たちにできることは何か、一緒に考えてみませんか。

## 11/18 (水) 『ワークショップで考える難民問題』

中尾 秀一 (難民事業本部)

難民とはどのような人なのでしょう。難民として祖国を離れなければならない原因、難民が受入国やそこまでの道中で体験する様々な困難、また、新型コロナがもたらす新たな問題について参加型のワークショップで考え、世界の難民の現状と課題、私たちに何ができるのかを考えます。

## 11/25 (水) 『ルワンダ内戦の悲劇から学んだこと』

永遠瑠 マリールイズさん (NPO 法人ルワンダの教育を考える会)

1994 年に内戦が勃発したルワンダから必死の逃亡の末、隣国の難民キャンプへたどり着いたマリールイズさん。困難な状況から彼女を救ったのは、教育、そして人との繋がりでした。内戦勃発から難民キャンプ、そして日本へという壮絶な体験についてのお話を伺い、命の尊さ、平和の大切さについて考えます。

## 12/9 (水) 『トルコのシリア難民は今』

景平 義文さん (難民を助ける会 トルコ事務所)

世界最大の難民受け入れ国トルコで、2012 年よりシリア難民支援を行っている難民を助ける会。障がいのある人々や子どもなど支援が届きにくい人々を支え、難民とトルコ人が協力して課題解決に取り組めるようなコミュニティ作りを支援してきました。現地で陣頭指揮を執る講師より、コロナ渦での難民の現状と支援活動について伺います。

## 12/16 (水) 『日本に暮らすミャンマー難民』

マリップ センプさん (NPO 法人 PEACE)

ミャンマー・少数民族を支援する NPO 法人 PEACE。家庭でのコミュニケーションを円滑にし、日本社会に多様な人材を提供するために日本語教室とミャンマー語教室を開催するとともに、民族を超えたコミュニティづくりを行っています。民主化運動に参加したことから弾圧を逃れるために来日した講師より、自身の経験とミャンマーコミュニティの現状、会の活動について伺います。

時 間： 19:00～20:30

定 員： 40 名 (要事前申込)

参加費： 無料

会 場： ZOOM を利用したオンライン講演会

申込者には当日の〈招待 URL〉をお送りします。

申込方法:各回の前日 17 時までに WEB にて

お申込みください。

〈申し込みフォーム〉

URL : <https://ux.nu/seaQj>

〈問合せ先〉

難民事業本部関西支部

078-361-1700 / [kansai@rhq.gr.jp](mailto:kansai@rhq.gr.jp)

神戸 YMCA 国際・奉仕センター

078-241-7204 / [houshi@kobeymca.org](mailto:houshi@kobeymca.org)

兵庫県国際交流協会

078-230-3090 / [hia-ex-co@net.hyogo-ip.or.jp](mailto:hia-ex-co@net.hyogo-ip.or.jp)

